

令和4年度 港区立芝小学校 授業改善推進プラン

教育目標

○日本国憲法
○教育基本法
○学校教育法
○学習指導要領
○東京都教育委員会教育目標
○港区学校教育推進計画

○やさしい子 ○よく考える子 ○げんきな子

○学校・家庭・地域の願い
○保護者・地域の期待や願い
○期待される児童像

学校経営方針（学力向上にかかわる要点）

☆算数の習熟度別学習・少人数指導の充実
☆問題解決的思考力・プログラミング的思考力の育成
☆地域の教育資源を生かした体験的な活動の重視
☆高学年における一部教科担任制の充実
☆主体的・対話的で深い学びの実現
☆幼小小連携の充実
☆基礎・基本の確実な定着
☆指導と評価の一体化の充実
☆タブレット端末の活用

各教科の指導の重点を確実に児童に身に付けさせるため、次の取組を行います。

道徳教育の指導の重点	教科名	取組内容	生活指導の重点
○「思いやり」「友情」を題材とした教材を多く取り扱い、相手の立場に立って考える力を育てる。 ○より児童の生活に即した題材となるよう工夫したり、登場人物になりきった役割演技の場面を増やしたりする。 ○日常の様々な場面で道徳的な実践ができたことを取り上げて称賛するなど、日頃から児童の心を育てる工夫をする。	国語	○日常的に国語辞典を使う習慣をつけ、語句の意味や使い方に対する認識を深め、文中で活用できるよう語彙の質と量を充実させる。 ○発達段階に応じた構成メモを作成したり、そのメモを交流したりする活動を通して文章構成を意識した書く活動を系統的に行えるようにしていく。	○相手の顔を見て自分から心をこめてあいさつができるようにする。 ○問題行動の指導の際は迅速な指導を行い、その児童を認める機会ととらえる。 ○教職員が連携を密にするために迅速な報告、連絡、相談を徹底する。
	社会	○調べ学習に取り組ませる際、教科書や地図帳、図書資料等を活用する場面を計画的に単元の中に位置付けていく。 ○自分たちはどうすればいいか、これから何が大切なのかなど、児童が「自分事」として考えるきっかけとなる問いを教師が意図的に発していく。	
	算数	○東京ベーシックドリルやまなびポケットのドリルの問題等に繰り返し取り組ませることによって基礎的な知識及び技能の定着を図る。 ○自らの思考の過程や結果を、図やグラフ等も活用した上で適切に表現する力を育てるために、途中の式を書くことを徹底する。	
	理科	○観察記録や実験データを適切にまとめ、表現する力を育てるため、さらに、結果からどういうことが考えられるのかを見いだせる思考力を着実につけるために、問題解決学習の流れに則って授業を組み立て、計画的に進める。	
	生活	○教師の「聴いて」「助けて」「任せて」「見守る」姿勢を心掛け、児童の思いや願いを基にした授業づくりを行っていく。 ○試行錯誤して活動の楽しさや満足感、成就感などの手応えを感じられるような学習環境を整え、児童が自らの学びを次の活動やこれからの生活に生かしたり、新たなことに挑戦したりできるようにする。	
総合的な学習の時間の重点 ○児童が「心から追究したい。」と思える課題を見いだすことができるよう、学習の手引きや資料等を活用し、単元の導入を工夫する。 ○情報収集の手段として、区役所等の施設や経験者に問い合わせをしたり、現場に行ったり、インタビューやアンケートを実施したり、他校と比較したりするなど、「人」と関わる時間を授業に意図的に取り入れるようにする。	音楽	○友達と互いの表現を聴き合ったり、考えを交流したりする学習活動を行い、他者の感じ方や考え方から自分の考えを広げられるようにする。 ○聴き取ったことと感じ取ったことを関連付けて言葉などで表す学習活動を行い、得た知識を表現や鑑賞に生かせるようにする。	特別活動の重点 ○児童がたてた個人や学級のめあて、学級会や様々な取組における目標到達度、成長点、自身や仲間への感情のフィードバック等、活動全般における振り返りの充実を図る。 ○係活動や委員会活動、学校行事への取組において、児童の自主性を尊重しつつ、活動意欲が高まる環境を整えたり、児童の活動の様子が周りに伝わる工夫を支援したりする。
	図画工作	○児童が学習課題を理解し、主体的に取り組めるようにするために、一単位時間の導入を工夫する。 ○「習得・活用・探究」を繰り返すことができるよう、題材や指導計画を工夫する。 ○自他の作品のよさに気付くことができるよう、制作した作品や身近な美術作品の鑑賞の時間を設定する。	
	家庭	○知識を生活体験等と関連付けてより深く理解するとともに、日常生活の中から問題を見いだして様々な解決方法を考え、また新たな課題を見いだす過程を重視した学習の充実を図る。	
	体育	○全ての児童が運動（遊び）における楽しさや喜びを味わうことができるような学習過程を考え、運動（遊び）の場を工夫する。 ○「する・みる・知る・支える」など、スポーツとの多様な関わり方を身に付けさせるために他者との関わりを充実させた体育授業を展開する。	
	国際	○身近な名詞や表現の仕方から繰り返し練習を行ったり、一人一人発話する機会を意図的に設定したりして知識の定着を図る。 ○単語や文章をしっかりとして定着させてから活動を行い、様々なペアで活動することでコミュニケーション能力を培うようにする。 ○児童同士が英語でインタビューし合うことで、英語での会話に慣れ親しむことができるようにする。	
			進路指導の重点 ○学期及び年間の自分のめあてを設定し、目標をもって活動すると共に、振り返りを通して自分の成長を見つめ直す。将来の自分について具体的に考える活動を取り入れ、自分自身に関心をもつことのできる授業を展開していく。中学との連携を図り交流をしていく。

本校の授業改善に向けた視点

教育課程編成上の工夫	指導方法・指導体制の工夫	評価活動の工夫	校内における研究や研修の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
○情操教育・文化的行事の設定（音楽会・学習発表会・花育） ○カリキュラム・マネジメントの充実 ○基礎学習タイムの設定 ○わくわくタイムの設定 ○三田アカデミーの充実	○時間講師・少人数指導の工夫 ○地域学校協働本部の活用 ○ICT機器の活用 ○体験学習の充実 ○言語活動、読書活動の充実	○複数指導者による評価 ○道徳科、総合的な学習の記述による評価 ○地域や保護者等の外部評価の充実 ○OJTによる教員同士の評価の充実	○校内研究の充実（研究授業実施、日常の取組の充実） ○教員同士の積極的な授業公開及び授業参観 ○日常的なOJTの実施 ○主幹・主任教諭による伝達研修の充実	○地域学校協働本部の活用 ○家庭学習の工夫 ○個人面談の充実 ○開かれた学校づくり ○外部人材との指導連携

